

令和 6年 5月 20日

理事長 殿

令和5年度 特定課題研究費研究報告書

研究代表者	所属	医療福祉工学コース	職	教授	氏名	吉村拓巳
研究分担者	所属	情報通信工学コース	職	教授	氏名	山本 昇志
	所属	医療福祉工学コース	職	准教授	氏名	吉田 嵩
	所属	創造工学専攻	職		氏名	中野 優奈
	所属	創造工学専攻	職		氏名	和田 純弥
研究課題名	(和文) モンゴル高専との国際交流に向けた調査研究 (英文) Survey and research for international exchange with Mongol Koosen College of Technology					
研究種目	教育課題研究					
研究実績の概要						
<p>本研究課題では本科における交流と専攻科における交流を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> 本科における国際交流の実施 12月25日にモンゴル高専の学生で日本語による本校学生との交流を希望する学生を対象に、Zoomを用いて本校の学生との交流を行った。交流会では両国の文化の紹介や学校の紹介を行い、質疑応答を行う方法で実施した。当日は約10名のモンゴル学生と、10名(途中参加の3名含む)の産技高専学生が参加し、日本語で約2時間実施した。交流は両国の学生から活発に質問がされて、関心の高さがうかがえた。特にモンゴル高専では1学年から日本語の授業が必修科目として導入されており、モンゴルの参加学生は日本語で質問を行っていた。これらの事より、モンゴル高専との交流は、英語に苦手意識を持っている学生においても、国際化の関心を持ってもらうには最適な交流先であると考えられる。 <p>購入物品との関係：交流に必要なPCやカメラマイク、三脚等の購入</p> <ul style="list-style-type: none"> 専攻科における交流の検討 専攻科学生と専攻科担当教員をモンゴルに派遣し技術交流が可能かを検討した。専攻科学生にはモンゴル高専においてエンジニアリングデザイン導入の検討を行う目的で、専攻科エンジニアリングデザインの授業の内容や作成した製品のプレゼンを行った。モンゴル高専の電気電子工学科、機械工学科、建築工学科、コンピュータ工学科の4学科の学生に対して実施したところ、いずれのクラスにおいても多くの質問があり、モンゴルの学生の関心が高いことがわかった。専攻科担当教員はモンゴル高専のコンピュータ工学科の教員とミーティングを行い、モンゴル高専における教育の状況の把握と、今後の連携について意見交換を行った。コンピュータ工学科では教員が3名しかおらず、授業内容も教員が独自に考えた方法で行うなど、教育のノウハウが確立されていない状況である。本校で実施している授業のパワーポイントを提供するなど、本校からのサポートを検討することになった。これを受けて、研究代表者が5年生で実施している「組込みシステム」の授業をモンゴル高専においても展開できるように検討を行った。 <p>購入物品との関連：教員1名および専攻科学生2名の渡航費用、宿泊費、マイコンボードの購入、電子部品の購入</p>						
研究発表(論文、著書、講演等)						
関連した研究発表等は無し						
その他(教育活動・OPCへの貢献、特許等)						
交流を行うことで、モンゴル高専の学生にとっても日本に対する理解を深めるきっかけとなった。特にモンゴル高専の日本語の授業で専攻科学生が日本語を用いて交流を行うことで、モンゴルの学生の日本語教育のサポートにもなった。						